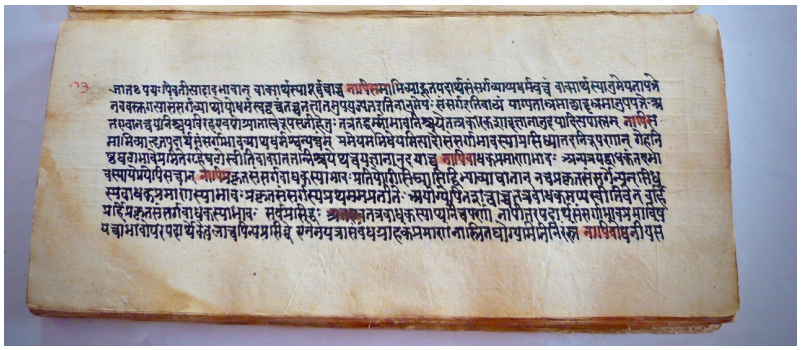
月刊 名大文学部

第93号
発行：名古屋大学文学部
広報体制委員会
koho@hum.nagoya-u.ac.jp

教員コラム―No.91

マサラ風味の哲学

岩崎　陽一（インド哲学）



インドに留学中，毎日３食カレーでした。毎食カレーライスというわけではないのですが，軽食はカレーパン，学食で炒飯を頼むとカレー炒飯で，焼きそばもスパイスが効いている。サブウェイもスターバックスも，サンドイッチにタンドーリチキンを挟んじゃう。「今日はカレー味じゃないものを食べるぞ」という意志をもって食事を選ばないと，基本的にカレー味のものを食べることになります。

裏を返せば，どんな食材もインドのスパイス〔マサラ〕で調理すれば，たちまち本格インド料理の風味が立ちはじめる。インド料理のそんな柔軟さは，インドの思想にもそなわっているようです。インド精神文化の研究方法にはさまざまなアプローチがあり，日本では哲学文献の歴史を調べる思想史研究が主流ですが，世界的には，インド思想の理論や用語を用いて人類の普遍的な問題を考える，応用的な研究も盛んに行われています。たとえば，ここ数年で急速に研究が進んでいるのが，「意志の自由」に関する問題です。意識が脳の物理現象であるならば，ひとがどう考えるかは，物理法則と外的刺激だけに決定されてしまうかもしれない。もしひとが意志を自由に決定できるならば，なぜそれが可能なのか。そういった問題を，因果応報の思想として知られる「カルマ」理論をはじめとする，インド4000年の知的財産を手がかりに考えていきます。いわば，輸入食材を，サンスクリット語の古典文献というマサラを用いて調理した，創作インド料理です。マサラ風味にすると難しい問題がクリアに見えてくるのは，日本人の精神が仏教を通してマサラ哲学と深く長くつながっているからかもしれません。

（写真は朝食の定番，ポヘとチャイ。カレー味です。）

分野・専門紹介―File26

ラドンの泉で古代のギリシアと出会う

分野・専門名：西洋史学

「リュクーリアから 50 スタディオン進むと，ラドンの泉に着く。私が聞いたところでは，フェネオス領の湖の水が山の中の穴を流れ下り，ここで湧き出ているとのことである。これが真実かどうか私には明言できないが，ラドンの水は，ギリシアの川でもっとも清らかで，さらにはダフネをめぐる神話のためによく知られている」。これは，紀元後２世紀の著作家パウサニアスの『ギリシア案内記』の一節です。授業でこのテクストを読んだときには，何気なく通り過ぎてしまったのですが，今の私にとって，この文章はとても感慨深いものとなっています。というのも，その後，初めて旅したギリシアでラドンの泉を訪れ，目の前でこんこんと湧き出る水の清冽さに，たちまち心を奪われたからです。その冷たい水に触れたときには，パウサニアスが生きていた時代との間の二千年近い時の隔たりが，いっきに縮まったような思いがしたものでした。

西洋史学研究室では，過去に生きた人々の世界を再構成するために，文字史料や考古学的資料から，独自

の解釈を引き出す研究を行っています。とは言うものの，史料はもちろん参考文献もほとんどが外国語で書かれているので，毎日が外国語との格闘といっても過言ではないほどです。それでも，そうした作業を通じて過去に生きた人々の生々しい声に接することは，とても刺激的であり，ラドンの泉の水に触れたときのような過去と現在が交錯する瞬間，そして史料を通じて過去と語り合うことの喜びを知ってしまうと，不思議なことに，そのような作業も苦にはならなくなってしまうのです。

（菊地　のどか・博士前期課程２年）

分野・専門紹介―File27

ことばと文化の研究を日本語教育に応用・実践する

分野・専門名：応用日本語学

応用日本語学分野は，日本語学，日本語教育方法論，日本文化論のいずれかの専門的な研究を行うとともに，日本語教育へ応用する力，日本語教育を実践する力を身に付けることを目指します。担当教員７名は国際言語センターに所属し，留学生を対象にした日本語教育の現場に携わっています。研究と教育実践の場が近いのもこの分野の特徴です。応用日本語学分野には，以下の３つの専門領域があります。

「日本語学」では，特に文法論，意味論，語彙論を学ぶことができます。文法論では，記述文法に加え，日本語教育のための文法研究も重要なテーマです。意味論は，認知言語学の枠組みでの様々な意味研究が中心です。語彙論は，文法と意味の観点を重視し，現代日本語の研究に加えて，漢語語彙等の通時的な研究も学ぶことができます。

「日本語教育方法論」とは，日本語の教育の方法を構築していくための理論的背景となる研究を行うとともに，それらの研究成果を応用し日本語教育の方法を開発，実施し，その効果と課題を明らかにする分野です。また，ICT（情報コミュニケーション技術）を利用した日本語教育方法の開発，談話分析やストラテジー研究の成果を応用した学習環境の提案を行うとともに，教室における相互行動分析なども行っています。

「日本文化論」では，主に文化人類学・民俗学の方法論による日本文化研究の知識を身に付け，グローバルな視点（特に東アジアの近隣諸国との比較）から日本文化を相対化する複眼的な思考力を養い，そこから得られた知見を日本語教育に応用する力を身につけることを目指します。

（浮葉　正親・教授）

最近の文学部

８月１０日はオープンキャンパスでお会いしましょう！

７月に入り，１年生は初めての大学の試験やレポートにだんだんと不安になってきているようです。それを乗り越えたら夏休み。オープンキャンパスでは研究室の実態，そして先輩や教員と直に触れるチャンスです。（YK 記）

＊本紙では，名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが，それまで待てない人は…
名大文学部の WEB サイト　https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/　まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）